

NEWS REPORT



カンサス市

ニュースレポート

第37回北米雪会議(NASC)が、1997年4月27日(日)から30日(木)まで、APWA (American Public Works Association, アメリカ公共事業協会)によりミズーリ州カンサス市において開催された。会議は、除雪と凍結路面の管理に関心のある最前線の人たちが意見や経験を交換する集会で、北米から約650名(官庁が大半で、学校と民間は、30%程度)が参加し、外国からは、名簿で判断すると日本人が4名で、海外からの参加が珍しいのか閉会において、日本からの参加が紹介された。

第37回北米雪会議参加報告



ソリトン・コム株式会社
専務取締役
佐藤 巖

1. APWA

会議を開催したAPWAは、都市土木技術を促進するために1894年に創立された米国地方自治体振興団体と公共施設の施工および維持管理に関する知識と手順を促進するために1920年に創立された道路職員協会が、1937年に合併して生まれた団体である。

APWAは、仕様書、実験工事、評価など広範囲に活動し、ニーズの変化につれて、新しい管理技術、エンジニアリングを認識する為の主要な源泉となり、教育的プログラム、研究プロジェクト、出版物、会議、展示会等を通し、公共事業に大きく貢献している。

私は、APWAに興味があるので、関心のあるものを紹介すると、
役員会：会長、次期会長および前会長(任期各1年)と地区役員(3年任期)で構成する。

専門講座：会員は、2つの専門講座に無料で参加できる。

教育基金：専門教育のための一連の現場診断、講習会、セミナー、電話相談および多数のサービスプログラムなどを提供する。

歴史学会：公共事業の歴史的業績を記録し顕彰する。公共事業の遺産を保存する。

研究基金：市、州、連邦および私的組織による公共事業の研究を運営する。

評議会：(日)調整会議 (月)危機管理会議 (火)機会均等会議 (水)前会長助言会議

主要催物：(日)公共事業国際会議および展示会 (月)北米雪会議 (火)ワン・コールおよび破壊防止シンポジウム (水)公共事業週間
以上のようなことが行われている。

2. 会議の概要

3日間の会議は、公共事業の専門家が運営し、専門家の講義に加えて、除雪および路面管理の経験を学び、熟達度を比較出来るような講習会を開いていた。特定の問題は、パネル討論会場で分析され、討論された。相互援助および災害対策に関するものもあった。

会議では、円卓会議、総会、本会議、分科会、閉会、展示会、見学ツアーなどがあり、討論や講演の内容が印刷された資料はほとんどなく、経験を尊重し、深追いすることなく、個人の責任において意見を交換していた。

円卓会議は、日曜の午後から開かれ、大きな部屋に12のテーブルを置き、明日からの本会議、分科会の予習をしているような感じで活発に討論されていた。

各テーブルには、テーマが表示されているだけで、好き勝手に動けるので、気楽に参加できた。

今年のテーマは、

- ・品質購入+計画+予防=生産性
- ・冬季技術の変化に適應せよ
- ・防水剤散布車輛
- ・良好な除雪および路面管理計画
- ・空港冬季メンテナンス
- ・腐蝕抑制剤
- ・冬季維持の調査と実際
- ・良好な雪管理の実務
- ・RWIS (道路気象情報システム)の性能向上
- ・翼形プラウによる都市の除雪
- ・液状凍結防止剤

話題の中心は、予算が足りないので、融雪散布より凍結防止散布に主眼を置き、粒状のものは加湿散布が議論され、適正散布には、RWISを利用することが効果的であるといわれていた。

本会議では、昨年は防水剤(凍結防止剤/融雪剤)の使用法について議論されたようだが、今年は、凍結防止散布の方向に定着し、防水剤メーカー(塩化マグネシウム、塩化カルシウム、塩化ナトリウム、CMA)と各材料の利点、欠点や効果的な散布について討論していた。

分科会では、広範囲の講習会が開かれたが、資料はなく参加できたのは、わずかであった。

- ・雇用関係変更の実務
- ・客(住民)が決める除雪および路面管理の性能
- ・雪管理運用計画と情報システム
- ・除雪コストの評価
- ・成功した除雪作業の外注
- ・除雪および路面管理計画は最良の防衛
- ・スノープラウの操作と維持
- ・21世紀への対応
- ・マネジメントへの移行
- ・環境技術としての道路凍結防止
- ・除雪車稼働と交通維持
- ・塩の散布量を減らそう
- ・雪嵐警報システム試験報告

- ・リスク管理
 - ・良好な冬季管理の実務
 - ・冬季維持工法の変化に順応
- 閉会では、”良く笑いなさい”と題しての講演で、我々は急激に変化する世界に生きている。変化のペースでさえ変化している！これをどう扱うか？興奮して血圧を上げる可能性がある、しかし、良好な対策は笑うことである。笑いは、変化する世界の中で、失敗やストレスを克服するのに我々を救う。ユーモア人間は、楽しみと光明を与えることができる。というようなことなのであるが、講演は、ジョークが多いので、私には笑うことができませんでした。

技術見学ツアーは

- ・国際空港の凍結防止と除雪
 - ・スノープラウメーカー見学
 - ・スポーツ&ローカル機械展示場
 - ・カンサス市RWIS運営見学
- がありましたので空港の凍結防止と除雪を見学しました。機械は当然大型でしたが、緊急時の移動指揮車は、バスの中に多くの通信設備を搭載したものでした。

3. 雑感

北海道工業大学の藤野教授(前北大低温研所長)に会った時、冬期路面管理が話題となった。特に、

経済の発展を阻害している除雪と凍結路面の管理には多くの問題があり、現実の対応はかなり困難なので、現場の声を聞くのが参考になるということでした。そこでアメリカには現場の人たちの会議があるので先生と2人で参加する事にしました。会議ではRWISの情報による加湿凍結防止散布が、経済的な最適散布と考えられるが、現場では、なかなかそれが普及しない実態が聞かれました。また、除雪のお客は、納税者なので、お客が納得するサービスを提供するのが自分たちの義務であると息巻いている人もいました。今年は、いかにして凍結防止散布を普及するか、訴訟を少なくするポリシー(政策、作業実施要領が条例のような感じ)を確実に住民に伝える方法、防滑材(防水剤と滑止め材)散布と安全の経済性を考慮した現実的な路面管理などが議論されていた。

この会議は、外国の学者や研究者が参加するような会議とは雰囲気異なり、参加者はほとんどが直接作業に従事している人たちで、悩みの多くは我々と共通でしたが、従事者の路面管理意識、責任感や解決への取り組み方は大変参考になりました。



空港の除雪機械